

武蔵野市第五期長期計画・調整計画 計画案
圏域別市民意見交換会（武蔵境地区）

1. 開会（午後7時）

2. 策定委員紹介

（事務局による会の流れの説明の後、委員長が挨拶し、各委員を紹介した。）

3. 意見交換

【委員長】 それでは、計画案の中でお気づきのところについてのご意見を賜ります。

【市民（境）】 33 ページ、IV緑・環境の基本施策3について。2月の意見交換会で、「里山」「雑木林」を入れていただきたいという意見を申し上げて、委員長からも前向きなご回答をいただいたという印象を持っております。パブコメでも同じようなことを書きました。しかし、今回それらが一切入っていません。なぜでしょうか。4行目に「里山の自然を含む」という限定的な文章を入れて、「武蔵野という地勢が形成されてきた」と続ければ、今後につながる表現になると思います。

34 ページ、基本施策3の（3）「緑と水のネットワークの推進」について。現在の長計では「生物多様性」という言葉が明確に入っていますが、この調整計画案には「生物多様性」が抜けています。2月の意見交換会で、なぜ抜かすのかとお聞きしたところ、今の長計に入っているものは当然引き継いでいくというご回答だったと思います。2行目に「生物多様性の観点を踏まえながら、」と入れて「将来に引き継いでいくための」と続ければ、すっきりいくのではないのでしょうか。

27 ページ、III文化・市民生活の基本施策4（1）「生涯学習機会の拡充」に「武蔵野プレイスや武蔵野ふるさと歴史館」とありますが、市民会館も社会教育の施設であり、社会教育は将来にわたる教育分野の一環です。特に、市民会館の施設、設備は、プレイスよりもはるかに多様な学習ができる条件が整っています。（1）にぜひ「市民会館」を入れてください。

また、生涯学習スポーツ課で行われている学習は、どちらかというと教養に偏っています。「生涯学習機会の拡充」で、コミュニティ関係や地域課題の学習機会を設けるということを明記してください。

【A 委員】 コミュニティ関係や地域の課題を入れるべきではないかという点は、おっしゃるとおりだと思います。健康・福祉分野の基本施策1の（2）では「年齢や障害の有無にかかわらず、ボランティア学習や福祉教育」と、コミュニティと関連の深いものを地域福祉活動の文脈で入れています。ご意見の、もう少し広くコミュニティをというあたりについても入れてはということかと思しますので、少し検討できればと思っております。

【市民（桜堤）】 16 ページの（2）「くぬぎ園の跡地利用」に書かれている「高齢者と障害者を一体的にケアすることができ、かつ、地域での生活継続にも十分に配慮した医療系サービスを核とする多機能複合型施設の設置」は「東京都と継続的に協議」するとのことで、私も協議の進み具合を継続的に聞いています。10月20日に開かれる説明会では、どの程度の医療系サービスが行われるのか、高齢者、障

害者の方はその医療系サービスのケアを受けることができるか等について聞こうと思っています。桜堤の団地は、とりわけ高齢者がお住まいで、ひとり住まいの方もたくさんいらっしゃいます。その方々から、診療所をとという要望が非常に強くありますので、医療系サービスは、充実したものを取り入れた制度にさせていただくように、東京都と十分協議をしていただきたいと思います。

【B 委員】 10月20日の説明会は、今のくぬぎ園のあった場所を東京都に返すに当たり、現在の建物を解体しますので、その際に発生する音や振動の問題についての説明が主になります。

市は、跡地にできる施設で高齢者、障害者への一体的な医療サービス提供ができるものをとという基本姿勢で東京都に提案をしているのですが、東京都は、事業者の提案を受ける方式でつくっていくとのことで、具体的な計画はこれからです。武蔵野市がこれまで考えていたことをできるだけ反映してもらえのように、必要に応じて東京都に要請を重ね、引き続き協議をしていきたいと思っています。

【市民（桜堤）】 団地自治会と武蔵野市と旧住宅・都市整備公団（UR）の三者の協議で、新しくマンションができた地域もあわせたところに診療所を誘致することになったのですが、応募者がなかったために、実現しなかったのです。身近なところに医療施設が欲しいという思いを、私たち住民は持ち続けています。

【B 委員】 今のご意見は、今後の協議の中で生かしていきたいと思いますが、地域の方がいつでも使える医療系機能を持つかどうかは、まだはっきりしないところがあります。市から都にお願いしている障害者のグループホームのほか、都のつくる施設の医療系機能を近隣にお住まいの方も利用できるかどうかについては、今後協議を進めていくということでご理解いただきたいと思います。

【市民（境）】 21ページの（3）「桜堤児童館の機能拡充」には、「保育所待機児童の増加、小学生の放課後の居場所など多様なニーズに的確に対応するため」、「子育て支援機能の拡充を図り」とありますが、今、児童館は、決して広くないスペースに、小学生があふれた状態になっています。そこに一時保育を始めさまざまな機能を詰め込んでも、どれも満足できない形になります。「市民の意見を聞きながら」とあるので、あえて言うなら、親も子も、保育室や調理室のある、以前のような児童館に戻していただきたいと思っています。

【委員長】 児童館に関しては、相当長い間、いろんな方からご意見をいただき、策定委員会でも何度か取り上げております。ここで、児童館についてのご意見をまとめてお話しいただきたいと思います。

【市民（桜堤）】 お子さんを寝かせる時間で、今日どうしても参加できないという方の意見を代理で読ませていただきます。

まず、この時間設定は、子育て世代にはかなり厳しいものがあります。

「児童館に関しては、「拡充」と書いてありますが、機能の変更という市の意図が見えて、行きやすい児童館から足が遠のいてしまいそうなことに、モヤモヤしています」という意見が、桜堤の新しいマンションにお住まいの方から届いています。

家庭保育をされている方からは、「一時保育は隣の桜堤保育園で十分ではないか。一時保育はそんなに需要があるのか疑問。児童館の対象とする中学生までが過ごしやすい環境をつくるのが優先ではない

か。乳幼児の利用率が高いのは、現在、乳幼児にほどよい施設だからではないか。市が見る現状と、遊び場を探す子どもを持つ親たちから聞く声は少しずれているように思う」という意見も届いています。

【市民（境）】 児童館は以前、2階を境こども園が使っていました。その後はもとに戻すという話を聞いていたのですが、現在は保育所が使っています。この保育所は、もとはURにあったものです。なぜまたURに戻すことはできないのか。

「民間の活力や市民の力を活かした運営」とありますが、なぜ市が継続して行えないのか。その費用を出せないのはなぜか。そこまでの予算が組めないというお話も聞いたのですが、裕福だと言われる武蔵野市が、なぜその費用を出せないのか。詳しく、データつきでお話いただけますか。

【市民（境）】 私は上の子が児童館で地域デビューをしまして、ママ先輩ができました。以前は、児童館の2階に2～3部屋あって、小学生がゴロゴロできていたのですが、今は保育室になっているために、子どもたちが玄関ホールの板の間や階段にあふれた格好になっています。下の子が2階の保育室のお世話になっているので、ありがたい反面、本来、小学生の場である児童館のスペースを奪っているようで、申しわけない気持ちになります。大きなマンションが建つことは、前からわかっていたはずですが、つけ焼き刃で保育室をつくるのではなく、別の場所に保育園をつくっていただきたいと思います。こういう場で物を言えない子どもたちはまだまだ増えます。その子どもたちの場所をきちんと確保していくということを、大人の責任として今後の10年間の計画に盛り込んでほしいと思います。

【市民（境）】 乳幼児・児童の増加に伴う児童館の機能拡充に矛盾を感じています。12時から2時の2階のお昼寝の時間に児童が声を出して遊んでいると、「静かに」と注意されます。親も配慮しているのですが、4～5階建てならまだしも2階建てで乳幼児と児童が共存するのは難しいと思います。市は現実的にどう使うことを考えているのでしょうか。この上、多機能化しても、お互いが邪魔し合うばかりで、子どもの増加に伴う対応は全くできないと思います。増築などの具体的な案はあるのでしょうか。

【市民（桜堤）】 桜堤の方から新たにメールが来ましたので、お伝えします。

「待機児童の解消という緊急的な問題を解決するために、児童館ではなく、桜堤小跡地やURの空室を有効に活用していただきたい。児童館は、もとの形で残してほしい。桜堤小学校の廃校は、団地の建替えて子どもが一番少ない時期だった。当時の市の見込みが甘かったことと、子育て世帯が増えたことへの対応が後手後手になったために、今の桜野小は満員になり、教育現場にしわ寄せがいつている。旧桜堤小跡地を運動公園にするという、子どもの少ない時期につくった計画は見直して、子どもも使える施設として整備すべき。児童館で保育機能を持たせることは反対。限られたスペースにたくさんの機能を盛り込むことで、中途半端な施設になってしまう。現に、境こども園では、限られたスペースにたくさんの機能を盛り込んだために、園庭が狭くなり、園だけで行事を開催するようになってしまった。地域の人との交流という境幼稚園の幼児教育の特色が失われ、閉鎖的な園になってしまったことは、地域にとっても損失である。保育園も必要だが、児童館は保育園や学童を卒業した子どもたちにとっても貴重な居場所になっている。学校単位のあそべえと違い、異年齢交流ができ、職員による見守りもあり、保護者にとっても安心できる場所である。本当に子どもたちのことを考えての計画なのであれば、限られた施設を子ども同士で奪い合う形にすべきではない。桜堤児童館はもとの形に戻してください。」

【市民（桜堤）】 私は、桜堤の団地に40年住んでおります。その間、桜堤の児童館、保育園は、子どもが育っていくために必要だということで、住民の要求でつくっていただきました。団地自治会とUR（住宅・都市整備公社）と市との話し合いの中で、児童館と保育園の役割を明確にしてきたという経緯からいっても、今のごちゃまぜの状況は全くふさわしくないと私は思っています。緊急措置として児童館の2階を保育室にという考えだったのでしょうけど、これからは、安心して子どもを育てられるようにしていただきたいと思います。

【市民（桜堤）】 一時預かりの件で、システムがうまく回るように善処するという意思表示を書いていたいただきまして、ありがとうございます。

前回、E委員から、児童館を欲しいという話はないのではないかとのご発言があったので、調べてみました。1963年の緑町から始まりましたが、緑町にはできなくて、70年ごろに桜堤に児童館ができました。78年には、「小学校1校につき児童館1館、とりあえず東部と中部に」という声が上がりはじめ。78年12月、吉祥寺南町児童館設置を求める請願が出て、翌年3月に議会で採択された。79年ごろから児童館設置の要望は一段と強まり、79年6月の市民文化会議で、「小学校2校に1カ所の割合で設置すること、新しいコミセンが建設される場合には1階全部を児童館に」という答申があった。また、議会の一般質問でも、「本町コミセン予定地を児童館に」という話を取り上げられている。80年12月、一小PTAから児童館設置の請願があり、全会一致で採択されたものの、できたのは桜堤だけだった。81年2月、市議会にて「東部、中部の2カ所の設置を早く」という催促があった。82年9月、中央地区に1カ所、児童館設置等の請願が出され、翌年3月、全会一致で採択された。ここから90年代後半までの情報が得られなかったのですが、99年度、2000年度の武蔵野市予算に関する共産党の要望書では、「市内の中学校に児童館建設を」とある。2007年、井口良美議員は市議会で、「児童館、児童センターをつくってくれ」と一般質問している。2007年10月、西部コミセンでのタウンミーティングでも、「児童館を全所的につくってくれ」という要望があった。2010年、2013年には、五長の計画案に対して、共産党と市民から、「児童館の転用をしないように」という意見が出ている。今回の調整計画でも、「転用はやめてほしい」等、児童館の要望は結構出ています。

【委員長】 ここまで児童館の機能に関して、利用者サイドに便益があるのに、なぜなくすのだというご意見が強くありました。桜堤だけが残っているのは、行政施設の効率的利用ということを今後考えざるを得ない状況にあるという問題が1つあります。人口動態の読みが甘いというご批判もありました。これは、公団がなくなるという政策決定や、不景気、震災という特殊な事情の影響があります。待機児童の緊急対応で児童館の2階が使えなくなっていることへの利用者さんたちの不満といった率直なご意見もありました。これらに対して、各委員からご意見がありましたら、お願いします。

【副委員長】 先ほど、市の予算についてのお話が出ましたが、私もこれまで武蔵野市は潤っていると思っていました。ところが、いろいろ勉強していくうちに、そんなにのんきな状況ではないということがわかってきました。今も大変驚きを持って学んでいます。

桜堤児童館の機能に関しては、どの委員も強い関心を持っております。私自身も、子ども・教育分野を書いた担当としてお伝えしたいこともあります。財政のこと、URのこと等を副市長からご説明いただいた後、意見を述べさせていただければと思います。

【C 委員】 現在、武蔵野市の財政は余裕があります。ただ、今後は生産年齢人口が減ってくるため、今の税制度のもとでは税収は増えないことが想定できます。

歳出では、ここ数年、待機児対策、保育園対策の義務的経費が増えて、一般財源の持ち出しが大きくなっています。これが減ることはなく、扶助費は今後も伸びていくだろうと見ています。また、昭和40年代に建てられた学校が間もなく、しかも一気に更新時期を迎えます。現在、市が持つ公共施設の延床面積は約32万平米です。これを建替えるとなると、安い単価で設定しても1,000億円を要します。現在は赤字ではないといっても、10～20年後の大量の公共施設建替えのための財源には、非常に心もとないというのが実態です。財源も含めて将来に渡せるような市政運営の考え方が求められます。

UR跡地にマンションが増えるのは、ある程度予想はしておりました。ただ、当初の価格帯が高い設定だったことから、入るのは高齢世帯で、子どもの対策は、ある程度のところでできるだろうと見ておりました。例えば、三鷹の駅前にできたツインタワーも、価格帯が高いことから想定される対策をとり、今のところ三鷹駅周辺で待機児が急激に増えるということには至っておりません。ただ、桜堤に関しては、当初よりも価格帯が下がったことから、お子さんをお持ちの方も取得しやすくなって、当初の見込みと違う状況になりました。保育園を建てようにも、用地の問題などがあり、すぐに建てるわけにはいかなかったというのが実情です。

【市民（桜堤）】 仮に、もう少し低い価格設定で、ファミリー層が入ると想定できていたら、対策を練ることはできたのでしょうか。

【C 委員】 練れたかどうかは過去のことですから、わかりません。ただ、課題と捉えてはいます。今も、大規模開発に関する情報は事前に関係各課に流れて、必要な対策をとることになっています。

【市民（境）】 駅から徒歩1分で、1億円超えの部屋もある三鷹のツインタワーと桜堤を比較するのはおかしいです。桜堤は、駅から徒歩20分以上で億を超える価格帯が想定されていたのですか。

【C 委員】 三鷹と同等の価格帯を想定したわけではないですけども、もう少し年齢層の高い人たちが入ってくるという読み方をしていました。

【市民（桜堤）】 想定外のことはどこの自治体でも起こり得ると思うんです。ただ、後手後手になってもいいので、早急に対策をとるべきだったのではないかと。今、子どもの数が倍ぐらいになっています。見込みが甘かったということからつかれないように早急に、子どものスペースを確保する対策が練られるべきだったのではないかと思います。

【C 委員】 確かに、早急に対策をとればよかった。ただし、桜野小学校の増築などはやってきているわけです。全てが完璧ではありませんが、増えたことを市は放っておいたわけではない。増築に関しても、将来減ることを見越してプレハブ増設校舎にしている自治体もあるところを、武蔵野市は、子どもたちに負担のないような建物を考えてつくっています。

【B 委員】 先ほど、一時保育について、お隣の桜堤保育園でいいのではないかとのご提案をいただきました。調整計画案の「民間の活力や市民の力を活かした運営を行っていく」という部分に関連して、

一時預かりも、例えば 24 時間対応できるようなものを目指しています。そうすると、市の桜堤保育園の対応では、やり切れない部分もあるのかなと考えております。財政的な面で、長い目で見て民間の活力に任せていこうという大きな方針もあります。ただ、本当に全て民間に任せられるのかということもあるので、そこは議論をし、意見も聞きながらやっていきます。市民の多様なニーズに、いろんな形で対応できるようにということから、この調整計画案では「民間の活力や市民の力を活かした」と書かれていると、私は理解しております。

さらに、「市民の意見を聞きながら」の前に「地域が求める課題解決に向け」とあります。児童館のあり方について、市の考えていることはこれまでもお話しさせていただいて、ご意見を聞いてきました。全ての方にご理解いただけている状態ではないですが、この調整計画期間の平成 28 年度以降も、引き続きご意見を聞く場を設けてやっていくということが記載されているとご理解いただければと思います。

【D 委員】 2階の保育室に入っていてありがたいけれども子どもの居場所を奪っているのがつらいというのは貴重なお話だと思いました。狭い児童館の取り合いになって、このままではコミュニティづくりにおいても、いがみ合うことになるのではないかと、私も桜堤の住民の 1 人として心配しています。

【E 委員】 そもそも五長には児童館の機能を全市的に展開してからと書いてあったのに、その順番を取っ払って進めたから、こんなことになっているわけです。あと 2 回の策定委員会で発生するであろう修正についても、皆さんのご意見を伺いたいというのが僕の本音です。

僕は 8 月 21 日の策定委員会を欠席しましたので、文書で意見を提出しています。まず、子育て支援機能は「拡充」か「充実」かというところで、僕は「充実」のほうがいいのではないかという意見を出しました。「拡充」という言葉を使うと、方向性が示されているかのような感じからです。「市民の意見を聞きながら」の過程で、一時保育は無理ではないかとか、中学生に特化するべきではないかという意見が出るかもしれない。今あるものを後退させるのではないなら、「拡充」ではなくて「充実」と書くべきではないか。

「民間の活力」という表現については、B 委員が「長い目で見て」と言っておられましたけれども、5 年間の調整計画の中で、民間に運営を委託する方向がないのであれば、誤解を招く表現は削るべきだと僕は思います。「民間の活力」イコール市民ではないかという意見もあったようですが、僕はそうは読めません。「民間の力」とか「民間の活力」と書いてあるのは、要するに民営化です。

先ほど、1963 年からの経緯をお話いただきましたが、僕が言いたかった児童館を欲しいという声がないのではないかというのは、過去の積み上げのことではない部分だったので、表現がよくなかったかなと思いました。もちろん、児童館があったらいいという声は聞きます。しかし、僕は、1 校に 1 館つくる場所が今の武蔵野市にあるのかなと考えるのです。コミュニティセンターがそういう場所を担うべきだったのではないか。にもかかわらず、今、建物ばかりになってしまっている。ただ、建物を変えていくことで、子どもが来やすいようにすることもできます。コミュニティ協議会のほうで、中学生なり小学生なりを受け入れられるようなものができないか。それに関しては、この先、地域フォーラムの中でも検討されていきます。コミュニティ構想でも、市民が声を上げることによって地域課題が定義され、解決されるべきだということになっています。だからこそ、そこは時間がかかっても児童館的な機能を必要としている僕らが出て行って、意見を言わなければいけないのかなと思っています。

そうは言っても、やっぱり即時対応してほしい部分もある。先ほどの「地域課題の学習」の件は、僕もそのとおりだと思いました。それを入れることで、参加されている方だけではない声を、コミュニテ

ィの皆さん、もしくはフォーラムに参加して下さっている皆さんが吸い上げて、スピード感も増すのではないか。

話を戻して児童館のことです。今の武蔵野市に必要なものは一体何なのか考えて話し合った結果、欲しがられているのは、今の児童館とは違うものかもしれないし、児童館そのものかもしれない。必要なものは必要だし、つくっていかねばいけません。ただ、それをつくる場所があるかどうかに関しては、一工夫なり二工夫が必要かなと思っています。

最後に、児童館をもとに戻してほしいというご意見がありました。本当に戻せるかどうかはわかりませんが、気持ちはストレートに伝わってきました。「市民の意見を聞きながら」ということで、もししたら皆さんとは違う意見が出ているかもしれない。そのところは承知しておいてほしいと思います。私は「拡充」という言葉は使わないほうがいいと思っていますが、「じゃあ、あなたは今の児童館をどう思っているの？」と聞かれたら、「皆さんの意見を聞いて、思う形にするしかないんじゃないですか」としか答えられません。ただ、この段階で方向性を示すような言葉は、書かなくてもいいんじゃないのかなというのが私の意見です。

【委員長】 今の「拡充」には、さまざまな市民の声あるいは声なき声も吸収していかなくやならないという状況があるわけです。市民参加の現実を支えておられる方々の声は届きやすいのですけれども、そうでない部分も、実はいろいろな意味で含んでいます。

【副委員長】 児童館の中身が変わって大変使いにくくなったというご意見は、よく理解しているつもりです。利用しているお子さん方にとっても、居心地がよくなかったり、遊んでいるのに怒られちゃうなんて、親としては、やっていられないなというのもわかっているつもりです。

私がというか、私たちがというか、一番大事にしたいのは、桜堤地区の子ども、子育て家庭の支援をしていきたいということです。連日、児童虐待のニュースが上がっています。昨年度対応した日本全国の児童虐待の件数はおよそ9万件です。実際はもっと起きているはずで、武蔵野市は児童虐待が起きていないのかといたら、そうではない。私は、桜堤が児童虐待の起きる温床だと申し上げたいのではありません。新しい集合住宅ができて、たくさんのファミリー世帯が入ってきている中、地縁、血縁のサポートもなく、子育てに孤軍奮闘しているお父さん、お母さんもいるはずで、その方々をどうしていくかということを、策定委員会の中で大事に議論してきました。

機能の「拡充」か「充実」かについては、私なりに意見を持っていますので、今後の策定委員会の中で話を進めていきたいと思っています。機能が増えたから床面積が奪われて、子どもにもよくないという経験がおありなものよくわかりました。ただ、機能が増えたらイコール床面積を奪われるということでもないんです。例えば、アウトリーチということであれば、床面積はほとんど要りません。今までの相談支援は、相談を受ける人が出向いて行って、困っているので支援をして下さいと言わなければいけませんでした。でも、今、障害者、高齢者、ひきこもりの人、子育て家庭等々には、出向いて行って相談することのできない方がたくさんいます。決して放っておいていいということにはならないので、今度は支援する側が出向いて行って、そこで支援を展開していく。これは福祉でも一般的なやり方になっているのです。

桜堤地区にはどういった子育て支援が機能として必要なのかということを確認した上で、そこに住んでいる子ども、子育て世代、高齢者といった市民全体を巻き込みながら、どういった機能を、誰が、どこで展開していけば、桜堤地区の子どもや子育て世代が豊かに幸せに暮らしていけるのか、そこを考

えていきたいと思います、21 ページに書いてあるわけです。計画に書いたのだから児童館の床面積をどんどんもらうということを書いているのではないことだけは、まずご理解いただけたらと思います。

【委員長】 児童館の議論は一旦打ち切らせていただいて、ほかの点についてもお願いします。

【市民（境）】 私が先ほど質問した、3つのことには答えていただけるのでしょうか。

1点目として、前回の意見交換会でも委員長にかなり肯定的にお答えいただいた「里山」「雑木林」といった言葉を、なぜ一言も入れなかったのか。

2点目は、今の長計には「生物多様性」という言葉が入っているのに、今回なぜ消すのか。

3点目は、市民会館が社会教育施設であるにもかかわらず、なぜ武蔵野プレイスやふるさと歴史館と並んで「生涯学習機会の拡充」のところに入れないのか。

【委員長】 先ほど、具体的な文言までおっしゃっていただいたので、策定委員会で検討させていただきますと申し上げたのですが、不十分でしょうか。

【F 委員】 「里山」の件は、意図的に抜いたということではないので、必要だということがあれば、入れることを検討させていただきます。

【B 委員】 市民会館は、社会教育という位置づけでもいいのですけれども、生涯学習の重要な施設であろうと考えます。私としては、入れていく方向で考えていきたいと思いますが、今後の策定委員会の中で、この分野担当の委員を中心に議論して決めていくことになると思います。

【市民（桜堤）】 21 ページの基本施策5の（1）の2段落目のICTについて。学校に盛り込んでいこうということが書いてありますが、佐賀県武雄市を初め、ICTを進めてよかったという結果をあまり聞きません。ここは「推進」ではなく、もっと慎重に進めていくほうがいいのではないかと思います。

【C 委員】 「効果を見極めたい」というのが一番重要なポイントで、一気に入れることは全く考えていません。まずは学校教育のテストケースに入れてみて、効果を見極めてやっていきます。内容的には、おっしゃっていることと大きな違いはないのではないかと思います。

【委員長】 後ろのほうの文章を読んでいただきますと、非常に慎重な書きぶりになっていることがおわかりになると思います。時代に取り残されることがあってはいけないが、極端な使い方あるいはマイナスになるような使い方をしてはいけないということです。

【市民（桜堤）】 であれば、「推進」という言葉が浮いてしまいます。推し進めるというよりは、もっとゆっくりやったほうが良いと僕は思います。

【副委員長】 策定委員会でも、ICTを導入すれば効果的な学習が進むとは考えていません。慎重にやらなければいけないという議論になりました。ただ、「推進」のかわりにどんな言葉を使ったらいいか、今思い浮かびませんし、ICT機器は入れないとも書けないので、どうしたものかと思っております。

いずれにしても、使い方をマスターした先生方には大変効果的であると伺っていますので、先生方が使い方を勉強する機会も入れていかなければいけないということを策定委員会でも認識しております。

【委員長】 学校にパソコン等をそろえたはいいけれども使わないまま山積みになっている自治体もあると聞いていますので、これは慎重にやっていただかないといけないと思っております。

【E 委員】 「判断力・表現力等を育成するため」は「効果的な学習を推進していく」にかかっているのですか。それとも、ICT機器を整備した上で「効果的な学習」をしていくのか。その捉え方で内容が結構変わってくると思います。僕は、「育成するため、効果的な学習を推進していく」としておいて、「ICT機器に関しては、効果を見極めたうえで」と、具体的に述べて「整備し」であれば、意味が伝わると思います。

【市民（境）】 18ページの待機児童対策のところ、「ニーズを把握」とか「ニーズへの対応」という言葉があります。ニーズの把握をどのようにしていくのかという問題は非常に重要です。現状のニーズ把握は、保育所の申し込みを出した方ということになっていないか。本来は、潜在的なところも全て含めたものことだと思います。

2段目の「安心して働き続けられるための支援を行っていく」というのは、フルタイムの方は比較的救われていますが、これから働き始める人は、保育所をほとんど利用できていない状況にあると思うんです。限られた時間の中で働こうとして、毎月電話して一時保育の予約をとろうにも、電話受付開始から2時間もすればすぐに埋まってしまいます。2カ所の保育園を日替わりで使っている人もいます。今、「3歳の壁」と言われ、小規模保育所から3歳以降は転園できないのではないかとということで、幼稚園を受験して、幼稚園の入園料10万円はある程度捨て金と考えて、3歳以降の預け先を確保するという方もいます。なかなか上がってこない声を的確に吸い上げる場所もぜひ検討して、具体的な施策として盛り込んでいただきたいです。

【市民（桜堤）】 旧桜堤小学校の跡地に何かつくるとしたら、新規になるのですか。再利用にはならないのですか。

【C 委員】 旧桜堤小学校の建物は耐震力の点等で壊すことになっています。新たに何かをつくるのであれば、当然新たな床面積の発生と捉えます。

【市民（桜堤）】 今ある床面積が減った部分につくっても、増えたことにならないのではないですか。

【C 委員】 総量ではそうですが、我々は将来減らすという観点で床面積を見ています。

【市民（桜堤）】 でも、今、必要なんですよ。

【C 委員】 そこは考えなければいけないところですが、面積は将来的に何%か減らしていかなければ、更新の費用が出てきません。今まであるものを建替えるとする、どこかで減らすことを考えなければいけなくなります。

【市民(桜堤)】 昨年度、税収が当初見込みより7億3,000万円多かったと聞きました。この7億3,000万円で保育園2つをつくれますよね。

【委員長】 税収の上がった下がったは、そのときの情勢もありますし、今後も続くとは限りません。今、税収が増えたから、すぐ建物1軒というのは、ちょっと議論が乱暴過ぎるように思います。

【市民(桜堤)】 今必要なだけけれども、保育の人たちは我慢してねというのも、少し乱暴だと思います。

【市民(境)】 ご意見はごもつともだと思って聞いていました。保育園が必要なくなったら、老人ホームへ転用するという考えもあると思います。今、児童館なり保育園なりを増やして、住みやすいまちにしていけないと、若い世代は入ってきません。武蔵野市は下降の一途をたどります。

【市民(境)】 私も、今は保育園を増やして、将来子どもが減ってしまったら、老人ホームやデイサービスなり、若い人に手伝ってもらえる施設にしていけばいいのではないかと思います。

【市民(桜堤)】 調整計画案では、少子高齢化を受け入れた表現は随所に見られますが、少子化対策については一切触れていません。安倍内閣は、三本の柱の1つとして希望出生率1.8を目指すとしていますし、武蔵野市は、一歩先んじて少子化対策に取り組むべきではないでしょうか。

4ページの下から3行目の「桜堤地区を中心とした局所的な人口変動は市政に大きな影響を与えるものであり」から「事業の見直しが必要である」という部分は、大変評価できる書き方だと思います。事業の見直しは必要です。人口が増えて、子どもが増えて、困っているんです。ぜひ具体案を入れて、ここに書いてくださったとおりにしてください。また、どこの部分を見直すのかもわかりやすくしていただきたいです。

5ページの1「人口推計」の3段落目に「総人口のピークの見込みが平成30(2018)年から平成55(2043)年と大きくずれたことは大きな違いであるが」と書いてあります。25年もずれているというのはびっくりです。「変化はなかった」と文章を締めくくっていますが、これでは大きなずれが伝わりません。

9ページの2「多様な主体による子育て支援施策の実現」に「妊娠・出産期から切れ目のない子ども・子育てを支援する」とあります。子どもというのは0～18歳ですが、ここに書かれているのは乳児であり、待機児童対策は今ほとんどが0～3歳または小学生と、かなり限定的になっています。ここで漏れている3～5歳、中高生に関しての記述もあるべきだと思います。

18ページの(3)「0・1歳児及び3歳児への対策」は、グループ保育が2歳までで、3歳からどうするかということであって、「3歳児以降への対策」ではないでしょうか。

【市民(境)】 先ほどから床面積が増えるのを気にされていますが、一時的には子どものために増やさないといけない。境周辺は、まだ場所があると思います。素人考えですが、一時的に桜堤小跡地につくって、桜堤保育園や西部コミセンなど、老朽化したものを閉じていけばいいと思うんです。

また、子どもは1歳でも歩き始めるので、広い部屋が必要になります。小規模保育室をマンションの

一室とかでやってくださるのはありがたいのですが、小さい子の発達のためにも、今ある床面積はぜひ有効活用していただきたいと思います。

【市民（境）】 19 ページの「小学生の放課後施策の充実」の中に「高学年児童（障害のある5～6年生を含む）については、学童クラブの在籍児童の状況を踏まえて、あそべえと連携した受け入れのための整備を図る」とあります。現在、学童は3年生まで、障害のある子は4年生までです。今現在でも、桜野小学校は定員120名のところに133名ぐらいいます。あそべえも、いっぱいです。そこに高学年までをどうやって入れていくのか。今いる待機児童の問題が解消されても、その子どもたちが今度は学童クラブに上がってきます。桜堤小跡地に何かを建てていただくなどして、子どもたちを安全に保育できる床面積を増やしていただきたいと思います。

【市民（桜堤）】 9ページの「高齢者福祉計画、障害者計画の着実な推進」について。医療介護総合確保推進法によって、10月1日から介護支援が大幅に市に移管されました。1,184名いらした要支援1・2の方は、10月1日からどう支援を受けておられるのか。要支援1・2の方は従来、専門家の方が対応していました。市の話によりますと、例えばシルバー人材センターの方々に3日間講習を受けていただいて対応してもらうのだそうで、サービスの質の低下が心配です。要支援1・2といっても単純ではありません。抜かりなく、しっかりやっていただきたいと思います。

【市民（境）】 41ページから42ページにかけて、「駅周辺」としていながら、「吉祥寺地区」「中央地区」「武蔵境地区」と3圏に分けた書き方になっていて、わかりにくいです。駅周辺に限るのであれば、「吉祥寺駅周辺」「三鷹駅周辺」「武蔵境駅周辺」と書くべきです。3圏域と言うのであれば、武蔵境地区は、人工的なものだけではなくて、豊かな雑木林・畑・上水を生かした表現にしてほしい。

48ページの中ほどに「職場のコミュニケーションの活性化」を入れていただき、ありがとうございました。行政職員の方は非常に閉鎖的で、市民を恐れている感じがします。市役所にも、市民と行政職員のコミュニケーションを豊かにするようサポートしていただきたいので、「市民とのコミュニケーション」という言葉もぜひ入れていただきたいと思います。

最後に、感想です。今日これだけ若いお父さん、お母さんが活発に出てこられて、子どもたちのためにとおっしゃっていることにとっても感動しました。子どもたちは、選挙には行けませんが、社会の、そして将来の宝物です。税金で子どもたちを育てるといえるのは、大きな社会的投資です。市役所は今後の施策において子どもを大事にしていきたいと思います。

【市民（境）】 14ページの「高齢者・障害者の活動支援の促進」は、大人の障害者向けの内容だなと思います。22ページの特別支援教育も、特別支援学級に通える程度の軽い子に対する内容です。

武蔵野市は、財政的に裕福なので、福祉関係が充実していると言われていますが、小学校の放課後の支援施設が少ないです。小金井市や小平市では、放課後、週3～4回、夏休みなどの長期休みはほぼ毎日通っているようですが、武蔵野市は週1回です。今年度に入って2つほど施設ができましたが、吉祥寺のほうですので、境地区からは何かと不便です。また、親御さんが働いていないとだめなのですが、下に小さいお子さんもいて働けないとか、大きくなると動きも活発になって、やはりとてもじゃないけど働けないという保護者もいます。武蔵野市は放課後支援施設が圧倒的に少ないので、増やしていただきたい。同時に、西部のほうをもう少し手厚くしていただきたいと思います。

22 ページの特別支援教室については、特別支援学級が廃止されて、各学校にできるという記事を見た親御さんたちが、教員の数は足りるのか等を心配しています。そのあたりを公にしてください。

【市民（桜堤）】 「高学年児童（障害のある5～6年生を含む）」の障害者5～6年生は、健常の4～6年生を含んではだめという話なのです。一緒くたに書かれているのは、すごく悲しいです。健常な4～6年生が学童を継続できないのと、障害児は今は4年生で卒所しないといけないけど5～6年生がそのまま学童に残れるという話は全然違うのです。今、放課後デイは全然ないし、軽度の子は行けない。軽度でなくても、週に1日あいていけばいいほうです。障害児の保護者は、家庭の事情でシングルの方もたくさんいらっしゃるし、子どものために働いてお金を残してあげたいという方もたくさんいます。施設も全然足りない状態です。障害児に関する項目をもっと入れてもらいたいと思います。

【市民（境）】 21 ページの児童館についてです。今、児童館で0歳児とか1歳児のイベントは月に1回です。でも、風邪を引いて行けなかったりすると、次回まで1カ月モヤモヤ、イライラします。機能だけではなくて、もっと中身を変えていくことも必要だと思います。

21 ページの最後に「豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進」とあります。長女は中学生なのですが、みんな iPad などを持っていて、12時を過ぎても LINE が飛び交っています。親は使い方がわからないまま、子どもたちが興味を示して、ひとり歩きしています。1人の親では止め切れないうところもある中で、心健やかに育てていく必要を感じております。

【市民（境）】 待機児童のニーズ把握の件で、先ほどは働く保護者のことだけを申し上げましたが、家庭で育てている人たちのニーズを酌み上げることも必要です。地域サークルを立ち上げるなどしていれば、人と会う機会もあり、子どもとどう接していきたいかということも、ある程度わかるのですが、そうではない人たちの意見を吸い上げる機会は全くない気がします。

基本施策2は、「子育てネットワークの多層化」ですとか「多様な主体による」という言葉できれいに書かれていますが、誰が、その後をどう検証するのか、どのように声を吸い上げていくのか。ボランティアで手を挙げてくれるお母さん、お父さん方の力が求められている気がするのですが、専門家の方々がどうかかわっていくのかについては、あまり書かれていません。専門家による育児相談会の機会も、健診のメニューが少なくなるなど、足りないところの声が届いていません。

【委員長】 活発にたくさんのご意見をいただきました。全てにご回答できるかどうかわかりませんが、後で議事録も見ながら、策定委員会に上げるものは上げていくことを考えております。

では、ご質問はここで切らせていただいて、あとは各委員から答えていきたいと思います。

【副委員長】 障害児、あるいは障害児を育てているご家庭の支援については、私は今回の調整計画ではかなり力を入れて書き込みをし、策定委員会でも議論を重ねてきました。具体的には17ページの(1)で「心身に何らかの障害のある子どもやその親が」「ライフステージの節目で途切れることのない」など、ワンストップも検討していただくということを議論の俎上にのせながら書いたつもりなのです。でも、書いていないという印象を持たれたということは、私の文章力の問題かもしれません。

保育園を、後に高齢者の施設に転用して、市民みんなで支えていけるような活動にしたらいいというのは、とてもすてきなご意見で、その一言を聞いただけでも、今日来てよかったなと思います。今回の

調整計画は、全ての分野にそこがしみ込んでいます。地域で起きている問題は、多様化、複雑化、解決困難化しています。これからは、行政だけでなく、専門職と市民とで協働体制をとりながら進めていくことが求められますので、先ほどの方の意見に、私は拍手したくなりました。

3歳児以降の対応をしていないのではないかという意見がありましたが、私はそういうつもりで書いていません。0・1・2歳は頑張るし、連続して3歳児以降も待機児童対策も考えていきます。

ニーズ調査に関しましても、策定委員会で何度も議論が出ました。ニーズ調査はちゃんと頑張っているということでは議論の俎上にはなっておりません。

お父さん、お母さん方にとっても熱い議論に感動したというご意見もありました。この方々が宝だというのは、私たち策定委員も同じ気持ちです。先ほど開会前にも、夜遅い時間にもかかわらず来ていただけることに対して、ありがたいねという話をしていたのです。私たち策定委員は、この計画を通して子育てをしているご家庭とか子どもさんをいじめようなどとは思っていません。ですから、私の個人的な感想ですけれども、先ほどのご意見と、それに対する他の方々からの拍手には、策定委員だってこんなに頑張っているのにと、ちょっとせつなくて、泣きそうになってしまいました。総合計画の性格上、個別計画のように細かくは書けないので、読み取りにくかったり、誤解を生んでしまったかもしれませんが、子育て家庭あるいは子どもさんの支援につきましては、私ども策定委員会は一生涯懸命取り組んでいるんだということも、ぜひご理解いただきたいと思います。

【A 委員】 少子化対策については、国はアドバルーンしか上げていないので、現在の提案のままでは絶対に少子化の解決は実現しないと私は確信しています。それでは具体的にどのような政策を行うかなのですが、1つには未婚化対策があります。そして、これは非常に難しいです。また、日本の場合、結婚したい人の同棲支援をしても、海外ほど実効性はありません。そこで、現実的には、既にお子さんがある方に2人目、3人目も産みやすい環境を整えていくという対策がとれるかと思います。また、少子化対策というよりは、働きやすい両立支援が重要ですが、これは国ないしは企業が対応しなければならないことです。そのため、基礎自治体ができるのは、せいぜい2人目、3人目が保育園に入りやすいぐらいかと思います。過疎地域と異なり、武蔵野市に来た子育て世帯に家を1軒提供しますというようなことは、コストパフォーマンス上、不可能ですので、実効性を踏まえたうえで武蔵野市でできる少子化対策は何なのか、書き込める部分はあるか、考えていきます。

人口推計が25年ずれた件は、人口推計の場合、慣性といって、一回大きく動くと、それが長く続くという点が指摘できます。今回は、非常に局所的に動いたもののその影響が大きいので、人口のピークが25年後にずれています。ただし、これはあくまで人口ピークの話で、桜堤は一時的に増えましたが、全体での人口構成比そのものはほとんど変わりません。高齢化は進んでいくわけです。その対策として、幾らお金をつぎ込んでも、高齢化が進んでいるため医療や介護を充実させることはほとんどできません。武蔵野市の要介護度が要支援1・2の方は、現段階では地域支援事業という形で、これまで受けていたサービスが介護保険から自治体へと移管されてサービスを受けています。今後は、地域の人々も一緒に参加していただきながら支えるという形でなければ、財政的にはもう負担できません。日本の介護保険は、諸外国に比べると充実してはいるものの、財政的にかなり無理をして広げてきた側面があります。それでも高齢者あるいは高齢者を支え介護をされる方の生活の質を維持していくには、地域の皆様と専門家と行政側とがタイアップしながら、地域ぐるみで支え合う仕組みが必要になってくると思います。

【B 委員】 地域支援事業は、手を挙げてくださった市民の方に講習を受けていただき、地域ぐるみの

支援という形をとるのですが、これによる質の低下をご懸念かと思えます。市民に参加していただく「いきいき支え合いヘルパー」は家事援助などをやっていただき、身体介護のような専門性を要するものは従来どおりの区分を考えています。

桜野小学校が今でもいっぱいなのに、これからもっと子どもが増えたときのことをどう考えているかですが、当面は、通級の特別支援学級という形ではなく、各学校に教室を置くことで、桜野小学校の一部不要になった部屋を学童などで使っていけるように、内部調整していただいているところです。

児童館の0～3歳向けイベントが月1回ではなかなか利用できないというご意見をいただきました。これは、スタッフの問題も含め、市民にも協力していただくことで充実していきたいと考えております。

家庭保育の方のニーズ把握については、28年度にアンケート等の調査をし、29年度からは子どもプランの量の見込みを改定していきます。現に保育園を使っている方だけではなく、家庭保育の方のニーズも把握できるような調査が必要だと考えているところです。

特別支援の、市内各学校の教員の数が大丈夫なのかという件につきましては、教育委員会では、現在の教員の数で当面对応できると考えているということです。ただし、比較的若手の教員の方には、スキルの面で人材育成が必要だということも聞いております。

最後に、放課後等デイサービスで、武蔵野市は近隣市のように頻繁には使えないというお声が強かったので、この3年間で建物の改装の補助制度をつくるなどして、週2回ぐらいは使えるように、これまでよりも拡大してきたと思います。週3回以上にならないかということについては、今後の課題かなと思っているところです。

【C委員】 先ほど、歳入の増えた分を使って保育園をというお話をいただきました。増えた分を使うという選択肢もあるのですが、基本的に歳入は手堅く見積もり、将来の財政負担に耐えるものにして、次の世代に渡していくという考え方でやっております。

三駅圏のことについては、表記を考えます。

【A委員】 職員の、閉鎖的な印象を取り払うための住民と行政のコミュニケーションについては、出向いていく、あるいは来ていただく、いろいろな方法があると思いますので、策定委員会の中で、また議論していければと思います。

【副委員長】 歳入の7億円増えた分で保育園をつくれればいいというご意見ですが、この1年間で武蔵野市は定員60名と80名の認可保育園を新たに作ったそうです。

【E委員】 子ども・子育て支援新制度のときにとったニーズ調査と実態が合っていないというご意見はたくさん出ています。僕は、ニーズ調査だけでなく、内容を市の実態に合わせて精査して書くべきだと思いますので、残りの策定委員会で改めて主張していかなければいけないかなと思いました。また、28年度に実施される調査は、例えば0～5歳のいる全世帯を対象にするぐらいの勢いでもいいのではないかと考えています。第4次子どもプランをつくるときにも、当時の地域推進協議会から、小学生のいる全世帯にやったらどうかという意見が盛んに出ていたのです。思いつきで言っていることではないので、市の方向性を確認しながら、また皆さんと議論をしていければと思います。

4. 閉会（午後9時22分）